

いつの日にか

(昭和五十一年寮歌)

小島茂君 作歌

真鍋利徳君 作曲

一

夜は巡り
限りなき光の束は
樹林をつらぬきぬ
朝の静寂の中一人にて
無為の思いもち嘆き憂える
もう情熱もなく涙ながる

二

何を求め
ほの暗き大気の底に
真摯な魂は
一つの心を持ちさまよいぬ
もはや言葉なく凍てつきて立つ
ポプラを見つめ祈りささぐ

三

大きな精神
物思う我らに
いまだあれどかすかなり
不毛の日々はかわき過ぎ去りぬ
なれどいつの日か結びつけなん
我等が命大きな魂へ

四

女性の清き美しさ
真摯な理性の輝きにさそわれて
ほのかな恋の想い胸に
なれど結びえず
あまりに深き心のあがき
この暗さに

五

深き森のささやき
清冷な川の流れに聞きいりて
清らかな中我息しなん
物を思わなん
静けさの中とけこみいりて
いつの日にか